

I 学校教育目標

あかるく すなおに たくましく 「自分らしく豊かに生きる児童生徒を育てる」

II 小学部教育目標

1 教育目標

のびのびと自分らしさを発揮し、学校生活を楽しみながら自ら活動する子どもを育てる

2 教育の方針

(1) めざす小学部の子どもの姿

- * 自分の好きな遊びを見つけ、すすんで楽しむことができる子ども
- * 基本的な生活習慣を身につけ、自分でできることをすすんで行う子ども
- * 自分にできる方法で、友だちや先生にしたいことや自分の気持ちを伝えることができる子ども

(2) 基本的な方針

- ① その子のありのままの姿を受容し、そこから生まれてくる課題を明確にして指導・支援にあたる。
- ② 一人ひとりの子どもが思いきり活動できるように環境を整えるとともに、ともに生活する教師の姿を、教育環境の基本として位置づけていく。
- ③ 子どもたちが生活しやすい日課にし、自発的、主体的活動が促されるようにする。
- ④ 学校生活全般を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団生活への参加意欲を育てる。
- ⑤ 学習活動全体で身体を使って学ぶ活動を大事にし、丈夫な体づくり・運動機能の向上を図るとともに、学習の基礎を培う一助とする。
- ⑥ 生活単元学習・校外学習・交流・散歩など実際的な学習を通して、社会や自然への関心を高められるようにする。
- ⑦ 個の課題に応じた課題別学習の時間を確保するとともに、集団学習の場でも個々の実態に応じた学習内容や支援を工夫する。

(3) 指導・支援の工夫、配慮点

- ① 学校生活全体を学習の場面ととらえ、子どもが表現するものを大事に受け止めその力を豊かに引き出すことができるように、環境作りを工夫し、楽しさや喜びを十分に味わい成就感や満足感が得られるようにする。
- ② 今その子が伸びようとしているところやつきたい力を的確にとらえ、興味関心や子ども達の生活に根ざした課題を設定する。また、評価を適切に行い、努力している姿を見逃さないようにするとともに、子どもが課題を理解し解決していく過程をつかみ、次の学習に生かせるようにする。
- ③ 子どもの褒め方・励まし方・制止の仕方・注意の仕方など、その子に伝わりやすい方法で行う。
- ④ 具体的な生活の中で、子どもが精一杯の力が出せるような学習展開を工夫する。
- ⑤ 生活する力を育てながら、自ら考えたり判断したりする力を高めていく工夫をする。
- ⑥ 日常生活を支える基礎・基本の力を育てていく。
- ⑦ 低学年・高学年の集団や課題別の学習集団を考えることにより、生活年齢・経験・能力などに応じた効果的な指導ができるように工夫していく。
- ⑧ 子ども達の将来の生活を見通した上で教育課程を弾力的に組織し、自立活動の時間を多く必要とする児童に対応していく。
- ⑨ 家庭（寄宿舎）との連携を密にし、一貫した指導・支援に心がける。